

## 地域政策学部地域政策学科のカリキュラム・ポリシー

島根県立大学のカリキュラム・ポリシーのもと、地域政策学部地域政策学科は、教育研究上の目的及び学位授与の方針に掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するために、「基礎教養科目群」「専門基礎科目群」「専門科目群」を配置したうえで、各科目群の科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を行います。

### 教育課程編成の考え方

#### 1. 「基礎教養科目群」

- (1) 幅広い教養に基づく広い視野と思考力、他者への想像力に基づく倫理感、将来の進路に向けて力強く踏み出す力を身につけることを目的に、1年次を中心に、学科共通科目として「一般教養科目」「語学・多文化理解科目」「キャリア科目」を配置するとともに、情報・統計処理の基礎を学ぶ「情報・統計科目」を配置します。

#### 2. 「専門基礎科目群」

- (1) 地域社会の特性と課題について理解を深め、課題について考察する際の基本的な知識や理論・調査手法・国際的な視野を身につけることを目的として、1年次から2年次を中心に、学科共通科目として「学科コア科目」リサーチ科目」「国際理解科目」「実習科目」を配置します。
- (2) 1年次の「演習科目」では、コースごとの基礎演習を必修とし、資料の探索と分析、レポートの作成やプレゼンテーションの技法など、論拠を示しながら論理的に自分の考えをまとめ、発表し、議論する基礎的な素養を身につけます。
- (3) 各コースの学びの基礎となる基本的な概念・知識・理論を学ぶことを目的として、1年次から2年次において、コースの中核となる科目を、コースごとに「コア領域科目」として配置します。また、「コア領域科目」と併せて学修することによって、多角的な視点と多様な知識を獲得し、各コースの学びを拡充する科目を、コースごとに「関連領域科目」として配置します。

#### 3. 「専門科目群」

- (1) 「基礎教養科目群」と「専門基礎科目群」の学修をもとに、各コースの学びを深化・発展させる専門的な知識や理論を学ぶことを目的として、コースごとに「コア領域科目」を配置します。また、「コア領域科目」と併せて学修することにより、多様な専門知識を融合させて政策を構想する際の基盤となる科目を、コースごとに「関連領域科目」として配置します。
- (2) 各コースにおいて、2年次から4年次の「演習科目」を必修とし、それぞれの演習テーマにより、高度な専門知識を修得するとともに、多様な知識を融合させて政策を構想するための思考力を身につけます。4年次には、それぞれのコースでの4年間の学修成果のまとめとして、卒業研究に関わる調査・研究を遂行します。

4. 全体を通して予習・復習時間を十分に確保できるように、履修登録単位数の上限設定（キャップ制）を導入します。

## 教育内容及び学習方法

- ・教養教育、専門教育の知識を修得するために、主として講義形式の科目を履修します。
- ・多様な知識を融合させて政策を構想するための思考力及び政策構想を分かりやすく発信するための技術を身につけるために、講義形式の科目の履修とともに、すべての学年で演習などの少人数制の科目を必ず履修します。
- ・多様な他者との協働を視野に入れて物事に取り組む態度を培うために、講義形式の科目や演習科目の履修に加え、地域をフィールドとする実習科目を履修します。

## 学修成果の評価方法

- ・学修の成果は、各科目が定める方法で行う試験により厳格に評価します。評価の基準は、各科目のシラバスに記載された到達目標をどの程度達成できているのかという観点から定めます。
- ・試験による価については、中間・期末試験、レポート試験、小テスト、平素の授業理解を確認するリアクション・ペーパーなどを科目の性質に応じて組み合わせて行い、その方法と配点は開講に際してシラバス等により明示します。
- ・中間・期末試験、レポート試験では、具体的な評価の基準を定め、異議申し立て制度を設置することにより、厳格で公平な成績評価を行います。

## 地域づくりコースのカリキュラム・ポリシー

地域づくりコースが掲げるディプロマ・ポリシーに示す能力を身につけることができるよう、次の基本的な考え方で教育課程を編成します。

### 教育課程編成の考え方

#### 1. 「基礎教養科目群」

「専門基礎科目群」及び「専門科目群」を履修するための基礎的な知識を幅広く修得するとともに、地域の見落とされている価値や資源を再発見するために必要な「視野の広さ」を身につけることを目的として、1年次を中心に社会科学・人文科学・自然科学の「一般教養科目」を配置します。また、情報・統計の基礎を学修するための「情報・統計科目」、外国語の活用能力を高め、多様性を尊重する態度を養うための「語学・多文化理解科目」、地域社会を構成する人材像について理解を深めるための「キャリア科目」を、それぞれ配置します。

#### 2. 「専門基礎科目群」

- (1) 地域社会の特性と課題について理解を深め、課題について考察する際の基本的な知識や理論・調査手法・国際的な視野を身につけることを目的として、1年次から2年次を中心に、学科共通科目として「学科コア科目」「リサーチ科目」「国際理解科目」「実習科目」を配置します。
- (2) 1年次に、少人数単位で開講する「地域づくり基礎演習」を必修科目として配置し、地域の様々な資源（社会関係・歴史文化・自然環境等）を分析するための基礎的な手法を理解するとともに、自分の考えをまとめ、発表し、議論する基礎的な素養を身につけます。
- (3) 地域を総合的な視点からとらえる考え方を学び、地域資源がもつ価値やその活用方法に関する基礎的な知識を修得するための科目を、地域づくりコースの「コア領域科目」として配置します。また、「コア領域科目」と併せて履修を推奨する科目を、「関連領域科目」として配置します。

#### 3. 「専門科目群」

- (1) 「専門基礎科目群」と同様、2年次から4年次に、地域づくりコースの「コア領域科目」及び「関連領域科目」を配置し、体系的な学修を通じて、地域が保有する潜在的資源または未発見資源の評価・活用方法に関する高度な専門知識を確実に身につけます。
- (2) 2年次から3年次に、現実に社会が直面している問題をテーマとする「地域プロジェクト研究」を必修科目として配置し、プロジェクトの企画・立案・実行の流れを理解するとともに、それぞれのテーマに関する高度で実践的な専門知識を身につけます。また、4年次には、「社会・公共」「文化・思想」「自然・環境」「企画・表現・発信」等に基づく高度な専門知識を活用して、卒業研究に関わる調査・研究を遂行します。

### 学修内容及び学習方法

- ・一般教養や、地域の様々な資源の評価・活用方法に関する基礎・専門知識を修得するために、映像や文献等を活用した講義形式の科目を履修します。
- ・地域の課題発見や見落とされている地域資源の発掘など、地域における実践力を身につけるた

めに、県内企業や個性的な活動をしている県内外の団体などをフィールドとした実習・演習科目を履修します。

- ・地域と協力、協働しながら、率先して地域課題の解決に取り組む「自立」した能力を身につけるために、すべての学年で演習などの少人数制の科目を必ず履修します。